

つばさ訪問リハ通信

H29. 4
V o 1. 4

つばさクリニック・つばさ訪問リハビリテーション事業所

事業所番号：1110208827

〒332-0035 埼玉県川口市西青木5丁目11-19メゾン西青木101

TEL：048-299-7886 FAX：048-299-7887

はじめに

- 1 はじめに
- 2 NEWS!!
- 3 PT 介入の一例

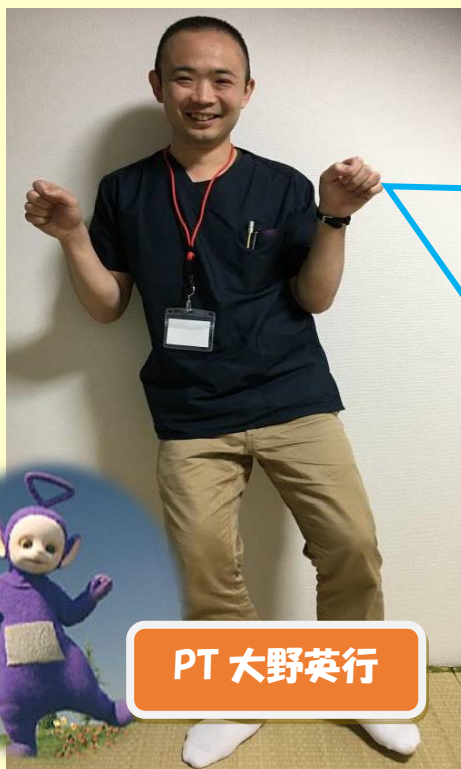
春陽の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。いつも一方ならぬお力添えにあずかり、誠にありがとうございます。このたび当事業所の広報(Vol.4)を作成させていただきました。みなさまでご一読していただければ幸いです。ご不明な点等ございましたらご連絡ください。

NEWS!!

- 4月より**常勤理学療法士(PT) 1名**が新たに加わりました。より一層誠意のあるサービスを提供できる様努めてまいります！
- 言語聴覚士(ST) サービス提供可能枠に若干空きがございます。必要性のある方がいらっしゃいましたらお気軽にご相談ください。サービスの提供は水曜日となっております。
- 訪問相談は無料にて対応いたします。訪問リハビリについてお悩みの方がいらっしゃいましたらご連絡ください！

在宅生活における利用者様・ご家族様1人ひとりの目標や願いを叶える為の一助となれるように、スタッフ一同、一生懸命頑張ります!!

ご相談・ご依頼お待ちしております。



PT 大野英行

利用者さまのお気持ちに寄り添いながら精一杯支援させていただきます。

また、最善のアプローチが行なえるように、皆様のお力添えを頂きながら一層の努力を重ねて参ります。

どうぞよろしくお願ひ致します!!

PT 介入の一例

脳梗塞により右片麻痺・高次脳機能障害を発症した方への介入

～やる気スイッチをオンにするために～

文責 志賀

症例: 83 歳女性 独居(夫: 入所中) **診断名**: 脳梗塞(H28.8 発症) 陳旧性右肩腱板損傷
介護度: 介護3 自発性は乏しく、日中臥床傾向である方

サービスに至る経緯

H28 年 8 月に脳梗塞発症、状態安定後リハビリ病院へ転院。H28.12 月自宅退院となる。

介入時の状態 H28年 12 月 7 日から介入開始

屋内移動は伝い歩きにて自立だが、手すりへ固執してしまい素早く動いてしまうことから転倒のリスクが高い。屋外歩行は歩行器を使用することで見守りにて可能だが、注意障害、バランス機能低下から他者から声をかけられることなどにてバランスを崩しやすい。

高次脳機能障害として失語(失算・失書が著名)があり、会話の中で言葉が出にくいことあり。

主訴: ふらついてしまって歩くのが怖い。右肩が痛くて家事などをやる気になれない。

ご本人の希望: 前の様に歩けるようになりたい(出来れば T 字杖 1 本で)。

ご家族の希望: 自宅に閉じこもらず外に出て他の人とも交流をしてほしい。

リハビリ目標

- ① 下肢・体幹の筋力強化及びバランス機能向上による歩行能力の向上(T 字杖レベル)
- ② 肩関節痛の軽減による家事動作等の活動及び参加への意欲の向上
- ③ 失語症状の軽減による他者とのコミュニケーション意欲の向上

介入から現在までの様子

平成 29 年 1 月上旬 失語症状の改善がみられ自分の名前が書けるようになる。

2 月中旬 歩行器使用での屋外歩行時のふらつき消失。自立レベルとなる。

日常会話レベルでのコミュニケーションが可能となる。

3 月下旬 T 字杖使用での屋外歩行時のふらつき軽減。見守りにて歩行可能となる。

4 月上旬 肩関節痛の軽減により洗濯物を干すなど ADL・IADL 活動への意欲の向上がみられる。

今後の目標及びご本人様の希望

- ① 筋力トレーニングやバランス練習を行ないつつ、会話をしながらの歩行練習などを行ない、注意障害へのアプローチを行なっていく、屋外 T 字杖歩行自立を目指していく。
- ② 出来る動作からしている動作、したい動作へと転換を促し、自発性の向上を図っていく。

まとめ

この利用者様は、病前は主婦として家事全般を行なっておりましたが退院後は麻痺・高次脳機能障害から調理等の活動を行なえておりませんでした。また、失語症状により他者との積極的なコミュニケーションが困難となったことから自発性の低下が生じており、日中臥床傾向が強くなっておりました。その為、麻痺による歩行障害へのアプローチのみでなく、高次脳機能障害及び活動意欲の低下をもたらしている肩関節痛の軽減を目標に置き介入を行なっております。

今後はご自宅での ADL を可能な限り高めるとともに、ご利用者様の 意欲・自主性を高い位置で保ち、また更なる意欲を促していくことも私たちの重要な役割だと考え、今後も訪問リハビリを行ないつつ通所サービスなどのコミュニティでの自発性の向上へつながる様に介入を行なってまいります。